

平成令和六年度

滝川第二中学校 入学考査 問題

A2日程

国語

(四十分・百点)

注意事項

- 1 問題は1ページから15ページまであります。
- 2 解答は、すべて解答用紙の枠内わくないに記入しなさい。
- 3 「開始」の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- 4 受験番号と氏名を、解答用紙と問題冊子の表紙に正しく記入しなさい。
- 5 「終了」の合図で筆記用具を置き、監督かんとくの先生の指示に従いなさい。

受験番号	氏名
—	

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数には、句読点その他の符号もそれぞれ一字としてふくみます。)

① 哲学を勉強しはじめたころ、哲学の本は難解なので、なかなか最初から順に理解していくことができなかった。理解したい箇所しよにぶつかると、とりあえずそれを読み飛ばしてつぎへ進んでいくしかない。そうすると、そのつぎの部分の理解が十分でなくなる。それでも、仕方ないから不十分な理解のまま、さらにさきへ読み進めていく。すると、またしても理解したい箇所かにぶつかる。このようなことを繰り返していると、そのうちほとんど意味がわからなくなり、もう読み進めることができなくなる。こうして途中とちゆうで挫折ざせつする。しかし、挫折したままでは、哲学書全体の理解は叶かなわぬ夢になってしまう。

大事なことは、理解しようなどと思わずに、とにかく全文を読みきることだ。なまじ理解しようと思うから、理解できなくなる、挫折する。最初から理解を求めなければ、最後まで読みきることができる。意味がわからなくても、文字面ぶんめんだけでも結構楽しいものがある。それを頼たよりにとにかく読む。そして繰り返し読む。もちろん、そうしたところで、わからない箇所が多すぎるか

ら、「※ 読書百遍意自おのずから通ず」というわけにはいかない。それでも暗記するくらい繰り返し読んでおけば、そのあと必死の理解を試みることで、何とか理解できるようになってくる。理解できないまま(A)が理解に至る必須ひつすの条件なのである。

それについて、数学はひとつずつ順に理解していきける。いやむしろ、そうやって理解を積み上げていかないと、全体が理解できない。このような場合には、意味もわからずに全体を暗記する必要はない。しかし、哲学のように、順に理解していくことができないものもある。(I)がわかって(II)がわかるのではなく、(III)がわかってはじめて(IV)がわかる。このような場合は、意味もわからずに全体を暗記するくらい、何度も全体に接する必要がある。それが理解に向けての出発点なのだ。意味を気にせず、とにかく声を出して読む。② 文字を絵画のように楽しむ、音を音楽のように楽しむ。これが理解へと至る※ 要諦ようていなのである。

しかし、いまの時代、そう頑張がんばって暗記しなくても、ネットで検索すれば、必要な情報はすぐ手に入る。中国の歴代王朝も、漢文や經典のテキストも、哲学の古典も、検索すれば、直ちに閲覧えつらんできる。わざわざ図書館に行く必要はないし、本屋を探し回る必



脳内に埋めこまなければならぬだろう。そうすれば、チップ内の情報どうしや、チップ内の情報と脳内の情報とのあいだに⑤何かのつながりが生まれてくるだろう。そうなれば、チップ内の情報は「整理」され、暗記した情報と同じように、理解に至る助けとなる。

ただし、脳内に情報チップを埋めこむことには、(B)な懸念がある。膨大な情報をいわば暗記できるからといって、健康者に情報チップを埋めこんでもよいのだろうか。それは脳(それゆえ心)に取り返しのつかない損傷を与えることになるかもしれない。深刻な記憶障害のある患者にたいしてなら、ひとつの治療法として情報チップを埋めこむことも許されるかもしれないが、健康者にそのような危険なことを行うのはいかがなものであろうか。

このような(B)懸念はあるものの、情報チップの研究は進められており、いずれ(B)な懸念も克服されて、脳に情報チップを埋めこむ時代がやってくるかもしれない。そうなれば、ようやく私たちは暗記の苦役から解放されることになる。『ドラえもん』に「アンキパン」が出てくるが、これはノートや本のページに食パンを押しつけて、その内容を写しとり、それを食べると、書かれた内容を暗記できるという便利な小道具だ。こ

の小道具のように、情報チップを脳に埋めこめば、その情報を覚えられるという夢のような時代がやってくるかもしれない。もっとも、暗記が趣味の人にとっては、暗記の価値がほとんどなくなって、いささか寂しい時代になるかもしれない。

⑥このような夢の時代がやってくるのは、まだもっと先のことである。技術の進歩が著しい昨今にあつては、何百年も先のことでないかもしれないが、少なくとも数十年は先であろう。それまでは、やはり暗記をせざるをえない。電卓が普及するまえは、筆算やそろばんで計算をせざるをえなかったが、それと同じように、情報チップの埋めこみが可能になるまでは、暗記は不可欠であろう。(C)は続くが、暗記の喜びを見つけることも可能だ。円周率の小数展開を何万ケタまで覚えている人がいるが、膨大な数の並びを一挙に脳裏に思い浮かべることができるのは、さぞ爽快なことであろう。嬉々として暗記できるようになれば、それは人生の潤いのひとつとなる。

(信原幸弘「『覚える』と『わかる』知の仕組みとその可能性」より。なお、作問の都合上、一部改変してあります。)

注 読書百遍意自ずから通ず：難しい書物であっても、何度も繰り返し読んで読めば、その意味は自然にわかってくるものである

る。だから、わからないと思つてすぐに諦めるのではなく、何度か読むべきであるとする教え。

要諦：物事の肝心なところ。大事な点。

問一 ——線部①「哲学」とはどのようなものですか。その説明としてふさわしい部分を、本文中から十七字で書きぬきなさい。

問二（A）に入ることばを、本文中から九字で書きぬきなさい。

問三（I）（Ⅱ）（Ⅲ）（Ⅳ）には次のどちらかのことばが入ります。適切なものを次のア・イから選び、記号で答えなさい。

ア 各部分      イ 全体

問四 ——線部②「文字を絵画のように楽し」むとはどういうことですか。その説明として最も適切なものを、次のア・イから選び、記号で答えなさい。

ア 文字の意味をとらえるのではなく、文字全体を一つの絵画を見るようにとらえること。

イ 文字を見るときに絵画を見るときのように歴史的背景や意味を読み取るうとすること。

ウ 文字を絵画のようにとらえることによつて、その文字の成り立ちを理解しようとすること。

エ 文字の意味を理解するために、絵画を見るときのように時間をかけてじっくり考えること。

問五 ——線部③「こういった意見」とはどのような意見ですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア わざわざ図書館や本屋に行くよりもネット検索の方が時間の節約になるという意見。

イ 自ら情報を集めに行かなくても、情報を集めるにはネット検索で十分だという意見。

ウ 図書館や本屋に行くよりもネットで情報収集するほうが、正確かつ安全であるという意見。

エ 現在はネット社会であり、できるだけネット検索を利用すべきだという意見。

問六 ——線部④「暗記にはまだまだ重要な価値が残されている」とありますが、暗記に残されている重要な価値について説明した次の文の【 】に入ることを、【ア】は十二字、【イ】は七字で、本文中から書きぬきなさい。

ネット検索にはない【ア】があったり、無意識のうち  
に情報が【イ】ことで理解の助けとなったりする。

問七 ——線部⑤「何らかのつながり」とはどのようなものですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア ネット検索で得た情報をコンピュータの中で「整理」し、理解の助けとするもの。

イ チップや脳内に蓄えられた異なる情報どうしが無意識のうちにつながり、役に立つもの。

ウ チップ内の情報が、ネット検索によって得られる情報とつながり、影響し合ったもの。

エ 脳とコンピュータを直接つなぐことで得た情報を、すぐに取り出すためのもの。

問八 ( B ) に入ることばとして適切なものを、次のア～エから選び、記号で答えなさい。ただし、三つある ( B ) には、同じことばが入ります。

ア 排他的 はいたてき    イ 意図的    ウ 画一的    エ 倫理的 りんりてき

問九 ——線部⑥「このような夢の時代」とはどのような時代ですか。本文中から十四字で書きぬきなさい。

問十 (C) に入ることばを、本文中から五字で書きぬきなさい。

問十一 次のア～カについて、本文の内容と合致するものには

○、合致しないものには×をつけなさい。

ア 哲学の本は難解であるため初見での理解は難しいが、文字面を追っているだけでも楽しむことができる。

イ 現代はネットの全盛の便利な時代ではあるが、暗記がまったく必要なくなるまでにはあと何百年もの期間を要する。

ウ ネットには虚偽の情報が混じっているため、ネットから得た情報より暗記によって蓄えた情報の価値のほうが高い。

エ 暗記できたことを確認する行為は爽快感を与えてくれるため、暗記は人生の潤いを与えてくれる行為だといえる。

オ 暗記したことを思い出すやり方で、コンピュータのメモリ内の情報を即座に取り出せるまでに研究が進展した。

カ 現代では、漢文や経典のテキストや、哲学の古典など、国や時代を超えた情報を容易に入手することができる。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(指定された字数には、句読点その他の符号もそれぞれ一字としてふくみます。)

大問2は著作権の都合により  
非公表となっております。

大問2は著作権の都合により  
非公表となっております。

三 次の四字熟語の□に入る漢字を、それぞれ後のア～工から選

び、記号で答えなさい。

(1) □ 磋琢磨

ア 折 イ 切 ウ 接 工 節

(2) 晴 □ 雨読

ア 高 イ 考 ウ 紅 工 耕

(3) 天 □ 爛漫

ア 真 イ 心 ウ 新 工 信

(4) 奇想 □ 外

ア 天 イ 点 ウ 転 工 展

(5) □ 枯盛衰

ア 永 イ 英 ウ 営 工 栄

四 次の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書

きなさい。

- (1) 夏至の日の出。
  - (2) 信長が安土に築城する。
  - (3) お互<sup>たが</sup>いに呼応する。
  - (4) 新しい曲を宣伝する。
  - (5) 地蔵を拝む。
  - (6) ヘイタイが行進する。
  - (7) 人口がゲキゾウする。
  - (8) シツパイしないように注意する。
  - (9) 苦しむ人をキユウサイする。
  - (10) 気体をアッシュクする。
-





